

古事類苑

器用部十九

坐臥具四

枕
名稱

〔倭名類聚抄坐十四〕枕陸詞切韻云枕之稔反和名萬久承頭木也

〔伊呂波字類抄雜末〕枕マケラ木也

〔運步色葉集滿〕枕

〔和漢三才圖會三十二〕枕音枕和名萬久良俗作枕者非也枕音允樟之屬

按枕臥薦首者也蓋所居座稱久良タカミクラケラアケラ高座鞍胡床之類是也枕乃顛座也アケラ和名上略乎

〔日本釋名下〕枕雜器枕まはあたま也上を略すくらは座也物をおく所座する所をくると云あたまをおくくら也

〔倭訓栞前編二十九〕まくら枕は目座の義也又纏の義ともいへり萬葉集にまくらをまくら

んともよみ枕の字をまかんとよみ又薦枕相卷之兒毛と見え日本紀の歌にあひまくらまくともよみて神武紀に枕をまきともよめり古へは専ら括枕なるべければ是も亦一義なるべし南海寄歸傳にも南海十島西國五天皆不用木枕用囊枕とも見えたり西土に紙枕皮枕石枕方枕等見えたり又香枕あり歌に新枕手枕袖枕小夜枕草枕篠枕薦枕杉枕岩枕磯枕小菅の枕柘の小枕敷妙の枕などよめり萬葉集にすがまくらとも見ゆ

〔古事記中〕天皇不知其之謀而枕其沙本后毘賣之御膝爲御寢坐也